■開設年度	■開講部局
2013	共通教育

■科目名

環境教育・ESD論（入門）

■英語科目名

Environmental Education and ESD: Introduction Course

■前後期	■開講区分	■科目形態	■単位数
前期	毎週	講義	2

■（２５年度以降入学生）中分類	■（２５年度以降入学生）小分類
a．実践・判断・精神力	6．環境を学ぶ
■（２４年度以前入学生）大分類	■（２４年度以前入学生）中分類
教養科目	分野3

■受講学部学科

全学部

■担当教員	■担当教員所属
萩原豪	稲盛アカデミー
■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
099-285-3757	k6219828@kadai.jp

■オフィスアワー（授業時間外の対応）

水曜日３時限目（ダブルブッキングを避けるため、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください。）

■共同担当教員

■メインキーワード	■サブキーワード
社会問題への理解と実践	コミュニケーション能力の修得

■授業概要（目的・内容・方法）

［背景］2002年、ヨハネスブルグサミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）で日本政府とNGOが共同提案した「持続可能な開発のための教育の10年」は同年末の国連総会で採択され、2005年から2014年が「国連持続可能な開発のための教育の10年」として制定されました。世界だけではなく、日本でも学校現場や地域などで数多くの取り組みがなされています。

［目的および方法］本講義では「持続可能な社会」を構築するための手法のひとつとして注目されている、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）について、「気づき→考え→行動する」ことを目指した研究と実践を行います。受講生は必ずひとつのワーキンググループ（WG）に参加し活動をしてもらいます。WGで提案・実践する企画は「お金をかけず、誰でも簡単に手軽にできること」を提案し実践することにより、「持続可能な社会」を取り巻く問題群について情報発信し、この問題について足下から考えるきっかけをつくるものと位置づけます。本講義は少人数演習形式（受講者数20名以内）で行います。

［内容］WGはNESCU-SHORTと銘打ち、前期は(N)自然、(E)資源・エネルギー、(S)社会（企業）、(C)地域、(U)大学の５つをテーマにします。まずWGで問題の背景や現状等を整理・考察していった上で具体的な研究課題を決め、プロジェクトの企画書を作成してもらいます。企画書は授業内で精査していき、その企画を実際に１週間実施してもらいます。プロジェクトの企画および活動結果については、かごしま環境未来館で研究報告会を行い発表をしてもらいます。

■学習目標

(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していくことができるようになること。
(2)　自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。
(3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。
(4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。

■授業計画（１５回に分け、回数、授業内容、自学自習等）

第1回目の授業はガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。

・ガイダンス
・レポートの書き方、グループワークの進め方
・「環境」に関するグループディスカッション
　（基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です）
・WGプロジェクト研究
・WGプロジェクト実践（２週間）
・プロジェクト研究実践報告会
・ふりかえり

［授業時間外活動］週末の時間を利用して正規の授業を行います。5月中旬：1泊2日の研修合宿（場所は頴娃・指宿を予定）。7月中旬：プロジェクト研究実践報告会。時期未定：環境教育施設見学会。これらは火曜４時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

■授業外学習(予習・復習)

グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり、プロジェクトの実施および発表準備などの作業をする必要が出てきます。

■受講要件	■成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。	授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度、企画運営への参画度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。 ［注意］次に該当する場合は評価対象外とします。(1)出席が総授業数の３分の２未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。［注意］次に該当する場合は評価対象外とします。(1) 出席が総授業数の３分の２未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。

■教科書	■参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な参考資料は別に提示します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える　持続可能な未来がわかる絵本』山と渓谷社、2007年。 (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書１、2010年。 (3) 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。 (4) 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。 (5) 東京商工会議所編『環境社会検定（eco検定）公式テキスト（改訂2版）』日本能率協会マネジメントセンター、2010年。 (6) 降旗信一・高橋正弘編著『現代環境教育入門』筑波書房、2009年。

■その他

［学外研修および研修合宿について］本講義では正課として学外研修および研修合宿を行います。交通費・宿泊費・研修費などの費用は実費自己負担で、例年、学外研修は1,500円前後、研修合宿は12,000円前後となります（参加人数によって変動あり）。これらの参加には学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。

［注意］第1回目の授業でグループワークを中心とした講義の進め方、学外研修および研修合宿に関する説明を行います。履修希望者は、第１回目の授業に必ず出席してください。履修登録人数が多い場合は第１回目の授業時に抽選を行います。